

平戸のおもてなし「人」の「力」

地方独自の取り組みを支援

政府の地方創生施策は、一定の形が要件になっています。例えば「まち・ひと・しごと創生」やDMO（観光地域づくり推進法人）と呼ばれる政策もその1つです。ただ、地域資源は北海道から沖縄までさまざまな種類があり、それを施策や資金の中で、地域独自にアレンジしていく必要があります。地域再生大賞の取り組みは、そのような枠組みがなく資金もない中で、地域の問題に知恵や努力などの創意工夫で挑んでいる団体の取り組みを後押しする目的で実施しています。

平戸観光ウェルカムガイドは、限られた会員と限られ

た財源という中で、会員の自主努力などにより活動してきたことが評価され、今回優秀賞に選出されました。

平戸市では3度目の受賞

平戸市においては、過去第3回にノミネートされた「あづち大島たからもんのかい」が、第4回にノミネートされた「平戸国際交流HIRAの会」がそれぞれ優秀賞を受賞しており、今回が3度目の受賞となります。

地域再生大賞

地域づくりに取り組む団体にエールを送ろうと、地方新聞社と共同通信社の提携で、平成14年度から始まりました。毎年、各紙が都道府県から原則1団体ずつ計50団体を推薦し、専門家をつくる選考委員会が審査にあたります。これまでに表彰した団体は、全国で450団体に達し、活動分野は産業振興や文化・伝統の保護、子育てや介護など多彩で地域づくりを考える輪が広がっています。

自由な創意工夫で地域に貢献した団体に送られる「第9回地域再生大賞」で、平戸観光ウェルカムガイドの活動が優秀賞を受賞しました。





NPO法人

平戸観光ウェルカムガイド

1999年に発足。2000年に開催された「日蘭交流400周年記念事業ながさき阿蘭陀年」関連イベントなどで活動しており、2004年にNPO法人格を取得。籠手田理事長を代表として、40～70歳代の会員38人で構成されています。平戸観光バスターミナル内に事務所を構える。受付時間は午前8時30分～午後4時30分、年中無休。

観光客のニーズに応じて柔軟な対応

平戸観光ウェルカムガイドでは、数種類のモデルコースを設定していますが、観光客が教会だけを回りたい、生月だけを回りたいなどの要望があれば対応したり、当日の天候によって案内するコースを変更するなど柔軟に対応しています。

案内する人数については、ガイド1人あたりの案内人数を20人までとしています。理由は、これ以上の人数になると、案内する際の声が全員に届きにくくなることや、歩いて案内する場合、行列が横に広がって、一般の歩行者や通行車両とのトラブルとなる可能性があるためです。特に



安全面に配慮してガイド案内

平戸市のような歩道が狭い商店街などは注意が必要になるので、より観光客の安全に配慮した取り決めを行っています。

その他にも、市内の定期観光バスにも乗車し説明したり、マイカーやレンタカーを利用して平戸に来る観光客には、同乗して案内するなど、個別のニーズに応じて対応しています。



平戸観光ウェルカムガイドを利用した人の声

まち歩きを利用



うらかみ 浦上 さん
むねあき 宗明 さん
ちえみ 千恵美 さん
(埼玉県吉川市)

定期観光バスを利用



よしやま 吉山 孝文 さん
たかふみ (山口県岩国市)

ツアーで利用



かねこ 金子 純 さん
たかし 純 さん
しずえ しず江 さん
(埼玉県さいたま市)

親切丁寧な説明で感動しました

長崎県の観光情報サイトでこのガイドのことを知って申し込みました。ガイドさんのおかげで、平戸の歴史や文化など、短い時間で学ぶことができ、大変満足しました。

自分で観光するよりも面白い

平戸は、世界遺産になる前から知っていましたが、ガイドさんと一緒に回ることによって平戸の歴史やキリスト教の歴史などをより詳しく学ぶことができ、とても満足しました。

平戸の歴史を肌で感じました

関東からのツアーで参加したのですが、短い時間で平戸の歴史を学ぶことができました。ガイドさんも上手に説明してくれて、天気も良く心地よいまち歩きでした。

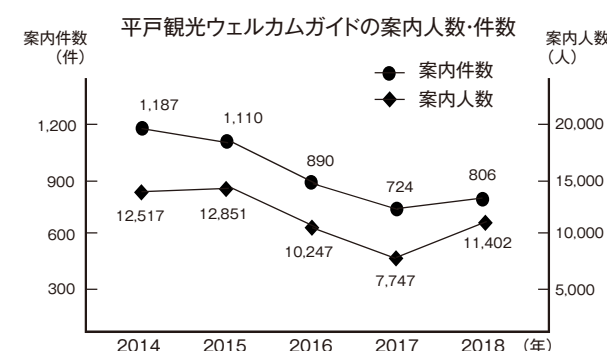
お盆やお正月も休まず営業

平戸観光ターミナル内の観光案内所と隣接して平戸観光ウェルカムガイドの事務所があります。毎日、午前8時30分から午後4時30分まで窓口案内を行い、お盆やお正月など平戸を訪れる観光客が多い時期にも、休まず営業し、飛び込みでの依頼も受け付けています。ガイド料は、案内する観光客の人数ではなく、案内に関わるガイドの人数で料金が決まります。

最近では、旅行形態が団体から個人へシフトしたことや東日本大震災などの影響により、年々減少していましたが、世界遺産登録の効果もあり、2018年は増加に転じています。



外国人の観光客にも対応



年間170万人を超える観光客が訪れる平戸市。平戸観光ウェルカムガイドは、個人・団体を問わず毎日受け入れを行っており、事前予約だけでなく当日窓口に来て依頼する観光客にも出来る限り対応しています。

平戸を訪れる人に、平戸の歴史を説明できる人材を育成

平戸検定を企画・運営



約1,600人が受検

平戸の自然、歴史、文化などの知識を問う「当地検定『平戸検定』」。平戸観光ウェルカムガイドが10年前に市に提案し始めました。

通常のご当地検定は、地域のファンとリピーターを増やすことが目的ですが、平戸市の場合はそれだけに限らず、合格者をガイドに勧誘しています。その成果もあり、上級合格者のうち、20人以上が新たに会員となり、今現在でも、12人が平戸観光のガイドを担っています。

その他にも、平戸検定の公式ガイドブックの作成や、合格者には現地研修などを実施。2014年からは、平戸会場以外に、東京会場や平戸高校でも実施したことで、市外在住者や高校生も受検しやすくなりました。2019年で平戸検定は終了することになりましたが、これまでに約1,600人が受検し、およそ890人が平戸検定に合格しました。

平戸検定上級合格者



市外在住者で平戸検定上級に合格。現在は平戸観光ウェルカムガイドに所属

七種 久さん
(佐世保市)

平戸の歴史は奥が深いからこそ魅力がある

私は吉井町出身で、もともと歴史好きだったこともあって長崎検定や佐世保検定なども受検しましたが、平戸の歴史には他の地域には無い奥深さがあり、それもあって平戸検定も受験しました。そして、上級合格した際に、先輩ガイドから誘われたことで平戸観光ウェルカムガイドに所属することになりました。

ガイドの時に、皆さんから「説明がよくわかりました」と言ってもらえることが、一番嬉しいですね。これからも、平戸の歴史をいかした魅力をたくさんの人たちに伝えていきたいです。

現役の高校生で唯一、平戸検定上級に合格。現在は、平戸市役所に勤務

日高 吉春さん
(堤町)



今後は平戸の魅力に気づいてもらう活動をしたい

平戸高校では、1年生全員が平戸検定初級を受検しており、私は歴史の授業が好きで、上級を受検したのも自分の住んでいる地域の伝統や文化をもっと知りたいという好奇心からでした。

平戸の歴史といえば、オランダとの貿易があったという程度の知識しかなかったのですが、さまざまな国の文化が入り混じって平戸独自の慣習や文化が創られたのだと思うと、勉強してよかったと感じています。今後は自分が学んだことを、より多くの人たちに伝えられるような活動も少しずつやっていきたいと思っています。



環境省の委託事業を毎年受けて、環境保全活動を実施しています。

平戸観光ウェルカムガイドは、市から事務所の無償提供と観光案内サポート料を受けていますが、基本的に会員からの会費(年間2千円)と顧客から受け取るガイド料の二部(1回500円)を収入としています。また、NPO法人を取得しているので、国の委託事業なども請け負っており、その委託料も活動費に

補助金だけに頼らない

平戸観光ウェルカムガイドでは、さまざまな課題を解決するために、独自に取り組んでいる活動があります。

充当しています。

ガイドの不公平感を払拭

観光客の中には、ガイドリピーターとしてまた平戸を訪れてくれる人もいて、時には同じガイドを指名する依頼もあります。

平戸観光ウェルカムガイドの籠手田理事長は「名指しのガイド依頼があることは、そのガイドにファンがついたことで平戸の観光にとっても大変好ましいです。しかし、良いことばかりではないんです。ガイドのファン、そして平戸のファンになってリピーターとして、来てくれることはありがたいのですが、当組織では、限られた人数の中で案内

所属ガイドでのレベルアップを図るために、毎月の定例会において、籠手田理事長や外部の専門講師を招いて、ミニ研修を行っている他、ガイドの説明の仕方や案内手法を学ぶ目的で、観光地の先進地の視察を行っています。

また、「龍馬伝」や「映画あなただへ」、最近では世界遺産登録により大幅な観光客が見込まれる時には、定例会だけに限らず、臨時で勉強会を開催するなど、ガイドのスキルアップに努めています。

その一方で、ガイド一人一人の個性を大切にしており、案内時の、制服着用など基本的なルールを守れば、あとは自由に案内できるようにしています。どのガイドが説明しても、同じような説明では面白みに欠けることから、ガイドそれぞれの個性を生かした説明をすることで、観光客にも飽きさせないよう心がけています。



毎月第1木曜日の定例会でミニ研修を実施

健康第一を心がけ、ガイドの皆さんを裏で支える



平戸観光ウェルカムガイド
籠手田 ヨシ子さん

私がボランティアガイドに携わって18年。今では一番の年長者ですが、平成16年にNPO法人となり、独自の事務所ができてからは、ガイドの手配など裏方作業に関わっています。

時代とともに観光客の意向や旅行形態も変わり、ガイドの必要人数や質の向上も求められるようになってきています。会員の高齢化など、さまざまな事情に左右される状況で、毎月のガイド配置にも苦労する日々ですが、今のガイドを支えていけるように頑張ります。



NPO法人平戸観光ウェルカムガイド理事長

よしお
こてだ
籠手田 恵夫 さん

Profile

猶興館高等学校を卒業後、東京外国語大学に進学。大学卒業後には、(株)日本交通公社(現JTB)に入社。在職時には国内や海外で勤務し、定年退職後に平戸へ帰郷。平成14年に平戸観光ウェルカムガイドに参加し、平戸を訪れる観光客にまち歩きやバスツアーなどのガイドを行っている。

私

は平戸生まれ平戸育ちの「じげもん(地下者)」で、地元の高校を卒業後、東京の大学に進学し、東京オリンピックが開催された昭和39年に、当時の(株)日本交通公社(現JTB)に入社しました。

入社した年は、日本人の海外旅行が初めて自由化されたことやオリンピックで多くの外国人が日本を訪れるなど、日本の観光国際化元年とでもいえる時期でした。

それ以降、私はインバウンド(外国人訪日旅行)やアウトバウンド(日本人の海外旅行)を中心とする国際観光分野に身を置き、平成14年に定年を迎えると同時にふるさと平戸へと戻ってきました。

平戸を離れていた40年間に、仕事と趣味の両面で、国内国外の観光地をほぼくまなく訪れることができたことは非常に幸せなことでした。また、JTB在職中の5年間は、英国ロンドンに駐在する機会

長年、旅行会社に勤務して

世界各地を旅する中で、改めてふるさと平戸の良さに気づきました。

次は、その良さを平戸を訪れる人、住んでいる人に伝えることが私の使命です。



理事長自ら、まち歩きなどの観光ガイドを行っています。

を得たのも、私の人生にとっては貴重な異文化体験でした。現在の、平戸観光ウェルカムガイドをするきっかけになったのも、ロンドン駐在中の経験によるものです。当時のロンドンには、多くのウォーキングツアーがあり、フリーペーパーなどに掲載されている情報に従って地下鉄の駅などに決まった日時に集まると500円程度のガイド料で「幽霊の出るパブツアー」「著名人の墓場を巡るツアー」など多種多様な歩きツアーが楽しめました。これは、日本でもありだと思いました。

また、世界や日本各地の観光地を巡り、自分のふるさとを外から改めて見た時に、平戸が決して捨てたものではないと感じました。英国滞在中にも、郊外の自然に触発され、定年後は自然豊かな平戸へ戻り、できることならふるさと平戸の魅力をより多くの人たちに伝える仕事したいと考えているようになりました。

平戸には、自然・歴史・文化・食などがすべて小さな箱庭に盛りつけられている唯一無二の観光地といっても過言ではありません。その魅力を伝えるガイドこそ、そんな自分の希望にぴったりの活動でした。平戸観光ウェルカムガイドは、ガイド業だけでなく、定年後の生涯学習や健康増進のためにも、良い活動だと思えますので、ぜひ多くの人に知ってもらい、一緒に平戸の魅力を伝える活動もやっていきたいと思っています。会員も随時募集していますので、興味がある人は、お気軽にご相談ください。

自然・文化・歴史

そんな平戸の魅力を

伝える「人」こそ

平戸を支える「力」

その「人」の「力」で

平戸を訪れる観光客に

笑顔になって帰ってもらおう

それが平戸観光ウェルカムガイドのおもてなし

